



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

もう一つの3.11 災害とコロナ

【当法人理事】

武蔵野赤十字訪問看護ステーション

豊島 麻美 [看護師]

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行から1年が経過しました。これを執筆するにあたり昨年3月のMANO a MANOを振り返ってみると、巻頭言は、杏林大学医学部付属病院 看護部の浅間 泉先生により「安全かつ有効な新しい薬や医療機器がより早く患者さんのもとに届くように！！」というテーマで治験コーディネーターのお仕事を紹介されていました。まさか一年先を予言するかの記事に大変驚きました。さらに4月号を振り返ると、植木先生が初めて新型コロナウイルスについて執筆され、そこには「COVID-19に対するワクチンは現時点では無いと報告されている」と記されていました。わずか1年で世の中の動きがこんなにも変化するものかと思いを深くしました。

WHO(世界保健機関)が新型コロナウイルスについて「世界的な大流行＝パンデミックと言える」という認識を示したのは2020年3月11日でした。本邦での「3.11」といえば、今年で10年を迎える東日本大震災の日です。あれから当法人も災害対策活動が始まり「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」の刊行や、糖尿病災害時地域ステーションの設置等に取り組んでまいりました。ところが10年の節目を目前にCOVID-19の世界的流行が起こったのです。緊急事態宣言は行動制限や3蜜回避など、まさに長期的な避難生活と新たな生活様式を考えざる日々となっています。

感染症への危機意識は、糖尿病を持つ方にどのような影響を与えたいでしょうか。また、どのような備えを加えていくことをどのようにお伝えしていけばよいのでしょうか。

1年のブランクを経て、今年の3月11日に当法人は、糖尿病災害対策委員会 第8回医療者向けセミナーとして「われわれ医療者の災害対策Update～あらゆる災害への備えを今こそ患者さんに伝えよう～」をオンラインセミナーで行います。第3波の荒波が、医療のひっ迫を余儀なくされる毎日で、医療・介護関係者である私たちは、自分の身を守りながら、タフに働かざるを得ない状況が続き、ストレス解消を同僚と密に分かち合う行動も制限があります。また、密な療養支援が困難な中、糖尿病を持つ方の療養生活をサポートすることは続けていく必要もあります。オンラインセミナーでは新たな考え方や支援のヒントを共有する機会にしたいと思います。多くの方のご参加をお待ちいたします。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 メタボリックシンドロームについて誤っているのはどれか、2つ選べ。

(答えは2ページにあります)

1. ウエスト周囲長とは臍の高さで立位、呼気時に測定した腹囲である
2. 日本の診断基準のうち高血糖は、空腹時血糖値 100mg/dL以上である
3. 日本の診断基準のうち脂質異常症は、HDLコレステロール40mg/dL未満である
4. 日本の診断基準のうち高血圧は、拡張期血圧80mmHg以上である
5. メタボリックシンドロームと診断された場合、糖負荷試験が勧められるが診断に必須ではない





第63回日本糖尿病学会年次学術集会

令和2年10月5日(月)～16日(金)

Web開催

[当法人評議員]

青梅市立総合病院

指田 麻未 [薬剤師]

初めてのオンライン開催となり、会期も当初の5月から10月に変更となりましたが、シンポジウムの視聴やポスターの閲覧などは通常時と変わらず(むしろ快適)に参加できたので、とても良かったです。移動時間などを利用して自分の生活のペースに合わせて視聴することができました。その中で今回の学会で特に印象に残った内容を3つ紹介します。

1つ目は『会長特別企画3 医学・医療に果たしたインスリンの偉大な功績を讃えて』の中で、インスリン自己注射が保険適応を取得するまでの道のりについて話をされていました。現在私たちはSMBGやインスリン自己注射を当たり前のように指導していますが、日本において自己注射が保険適応を取得したのはインスリン発見から60年後の1981年であり、長期にわたり困難な過程を経ている事がわかりました。その当時、患者やその家族の事を思って奮闘された先生方の苦勞を知ることができて良かったです。来年はインスリンの発見から100年の記念すべき年となるので、インスリンの歴史についてさらに深く学んでいきたいと思いました。

2つ目は『シンポジウム15 新規糖尿病治療薬の動向と期待』を視聴し、新薬についての知識を深める事ができました。重症低血糖の救急処置に使用するグルカゴン点鼻製剤(バクスマー)は2020年10月に発売されました。室温で管理でき、携帯可能な1回使い切り製剤であり、注射薬よりも手技が簡便であるため患者家族や介護者にとって使用しやすい薬剤となっています。また、今後承認予定の新薬としてはGIP・GLP-1作動薬やGLP-1製剤の内服薬、ミトコンドリア機能改善薬などが挙げられており、今まで以上に個々の病態に合わせて治療薬が選択できるようになると思われます。

最後に今年も複数のシンポジウムで取り上げられていたSGLT2阻害薬についてですが、1型糖尿病への使用実態や最新の臨床試験の結果を知る事ができました。また、腎保護、心保護などの臓器保護作用が認められたことから、今後の糖尿病診療、糖尿病合併症診療に大きく期待されている薬剤となっています。具体的には、心不全の適応を取得予定であり、糖尿病の既往がなくてもSGLT2阻害薬を使用できるようになります。(学会終了後の2020年11月にフォシーガ錠は適応追加となりました)SGLT2阻害薬を服用する患者は今後更に増えると思われるため、薬剤師として患者に正しく服薬指導を行うのはもちろんのこと、時には医療スタッフに対しても副作用や注意事項について周知していかなければと思います。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 2, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満、インスリン抵抗性を基盤として脂質代謝異常、耐糖能障害、高血圧といった動脈硬化危険因子が重積することによって動脈硬化性疾患の発症が増加するとした概念である。日本の診断基準では、内臓脂肪蓄積をウエスト周囲長(男性85cm以上、女性90cm以上)で代替させ、加えて2つ以上の危険因子を有するものと定義し、内臓脂肪蓄積を必須項目としている。

1. ○
2. × 高血糖の基準は、空腹時血糖110mg/dL以上である。IDF(国際糖尿病連合)では100mg/dL以上としている。
3. ○ 脂質代謝異常の基準は、高中性脂肪血症(150mg/dL以上)かつ/または、低HDLコレステロール血症(40mg/dL未満)
4. × 高血圧の基準は、収縮期血圧130mmHg以上かつ/または、拡張期血圧85mmHg以上
5. ○

2020年10月5日～16日に第63回日本糖尿病学会年次学術集会在開催されました。今年はコロナ禍という異例の事態となり、オンデマンド配信を利用した学会となりました。私は多職種が関連した学会に参加させていただくのは今回が初めての経験であり、内容や規模の大きさに圧倒されながら毎日1時間程度の講演を興味深く学ばせていただきました。

今回のトピックスは、やはりCOVID-19と糖尿病との関わりではないだろうかと思えます。この演題について、京都府立医科大学の山崎先生が講演され、隔離されたCOVID-19入院患者に頻回SMBGを行うことは感染リスクの増加や医療者のストレスにもつながるといふことで、Real-TimeCGM(講演ではDexcom G4)を装着して遠隔モニタを行いつつ、インスリンの調整を細かく行うという方法が紹介されていました。また、コロナ禍でのストレスが運動や食事に影響し、糖尿病を悪化させることも示されました。

治療に関してはSGLT2阻害薬に関する演題を拝見させていただきました。日本や諸外国からのデータより、血糖値の改善と心不全のリスク回避や腎機能の保護に効果があるという発表を興味深く伺いました。

猛威をふるっているCOVID-19に対峙している状況で、諸先生方の講演をオンデマンドでの学会という形で学ばせて頂いたことを大変感謝しております。



【当法人会員】

杏林大学医学部付属病院

鈴木 光一 [臨床検査技師]

第63回日本糖尿病学会年次学術集会在、10月5日～16日Webで開催されました。元々は5月に滋賀県で開催予定でしたが、COVID-19のため延期となり上記のような形式となりました。

今回は、「縦糸と横糸で織りなす糖尿病学の基礎と臨床～チーム医療で目指す糖尿病のトータルケア～」というテーマで、糖尿病の基本的な内容から実臨床・現在の治療の相互関係等、様々な職種から多くの演題が挙げられていました。

運動分野のシンポジウムでは、「運動療法の今後」という大枠で、6名の先生方が筋肉量・質の低下が、糖尿病患者にどう影響するか講演されていました。その中で肥満者が代謝疾患になりやすいというのは、以前から言われていましたが、日本人では肥満でなくてもインスリン抵抗性が出現しやすく、骨格筋の量や質・インスリン抵抗性に多くのパターンがあり、状態に応じて個別化した運動療法が必要と述べられていました。

本年、糖尿病治療ガイドに記載された目標設定が、「健康な人と変わらないQOLの維持と健康な人と変わらない寿命の確保」から「普通の人と変わらない人生」へ変更され、その過程ではサルコペニアとフレイルの予防・管理も追記されました。高血糖だからといって有酸素運動を指導するのみでなく、その人の生活にあった運動方法で筋力強化・体重管理を実施し、総合的に身体作りを行う必要があり、療養指導の個別化がより強調されてきたと感じました。



報告

第21回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

日時: 令和2年10月24日(土)
オンライン/立川市民会館

2020年10月24日(土曜日)、立川市民会館たましんRISURUホールにて第21回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会が会場・webの同時開催にて行われ、糖尿病治療に携わる医師・コメディカルを併せて、会場参加11名、web参加46名、総勢57名の先生方にご出席いただきました。

症例検討会では、症例1を立川相互病院 糖尿病・代謝内科 山崎 英樹先生より『頻回インスリン注射療法からGLP-1製剤・持効型インスリン療法に変更するも血糖管理に難渋している肥満高齢2型糖尿病の一例』と題し、クイズ形式を用いながらご参加の先生方のご意見を頂戴しながら、治療に難渋されているご症例の管理をご提示いただきながら、最新のガイドラインや試験をご紹介いただきました。

特別講演1を医療法人社団ユスタヴィア 理事長 宮川 高一先生より『GLP-1受容体作動薬と血糖平坦化』と題し、数多くの自験例を元に、様々な患者背景にあった患者様目線に立った最適な糖尿病治療に関して、近年発売された最新のGLP-1製剤について知見をご教示いただきました。特別講演2においては、かんの内科 院長 菅野 一男先生より、『基礎インスリン製剤/GLP-1受容体作動薬 配合剤の有用性』と題しまして、具体的な症例やデータをご紹介いただき、数ある糖尿病治療薬の特性をご紹介いただきながら、最新薬と従来薬の違いや、治療経過とその工夫、患者様のご様子などを大変わかりやすくかつ詳細にお話いただきました。ご講演後はご参加された先生方からのご質問も多くいただき、大変な盛況のうちにご講演会を終了いたしました。

報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第67回例会

日時: 令和2年12月16日(土)
オンライン

「糖尿病療養指導のネクストステージ～改めて見直す生活習慣～」というテーマで2020年12月16日第67回例会が開催されました。3名の講師の先生から貴重なご講演を頂きました。公立昭和病院の高橋 克敏先生からは「糖尿病と睡眠」の演題で、睡眠と生活習慣病には関連があり、質の良い睡眠のために生活指導の一環として睡眠指導が必要であること。睡眠時無呼吸症候群をみつけ、積極的に治療に結び付けることの重要性について。東京都立多摩総合医療センターの佐藤 文紀先生からは「糖尿病における減量手術」の演題で、減量手術の実際や、患者の減量に対する意識の変化、リバウンドを発生させないためのチーム医療の重要性について。府中よつやクリニックの市川 雅先生からは「タバコと糖尿病の関連性」糖尿病患者の禁煙をどうするか」の演題で、喫煙の害について、薬処方だけでなく禁煙への意識づけ、チームでの支援の重要性についてお話頂きました。

また今回はZoomを使った初めての例会であり、運営側も、視聴者側も慣れない開催となりました。講演後のアンケートではWeb開催に対する評価も高く、昨今のコロナ禍においてWeb開催の需要は高まっていることがわかりました。糖尿病の知識のみならず、今後はICT: Information & Communication Technology (通信技術を活用したコミュニケーション)の知識の必要性を実感しました。

Agenda

- 1 高度肥満は何か問題か
- 2 減量手術 overview
- 3 当院での減量手術の実際
- 4 症例提示

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00 / 13:00～16:00にお電話くださいようお願いいたします。

《2021年度年会費納入をされていない方はお急ぎください》

2021年度年会費は、ご自身のマイページ「年会費納入のお願い」より、ご納入いただけます。会員継続される方は、**3月31日(水)**までにご納入をお願いいたします。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付しております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q.これまでに取得したLCDEの単位数の確認はできますか？

A.マイページの一番下の「LCDE情報」の「単位取得状況確認」より、確認ができます。これまでに参加したセミナー名、付与単位数、取得期限などが記載されておりますので、ご利用ください。



単位取得状況確認

これまでに参加したセミナー

開催日程/セミナー名	付与単位数
2016/12/31 H28年度会報贈読単位	2 単位
2016/02/19 H27年度会報贈読単位	2 単位
2016/06/11 NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 第59回例会	7 単位
2016/07/03 第13回西東京糖尿病学研修会【平成28年度 西東京糖尿病看護指導プログラム】	10 単位
2015/03/02 H26年度会報贈読単位	2 単位
合計単位数	23 単位
LCDE更新まで、残り	27 単位

最終更新日: 2019年03月31日

研究会等のセミナー・イベント情報

主催事業
 共催・後援事業
 その他

◆ 糖尿病災害対策委員会 第8回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『われわれ医療者の災害対策Update～あらゆる災害への備えを今こそ患者さんに伝えよう～』
 開催日：2021年3月11日（木）19:20~21:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（3/6締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

◆ 第7回西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス

申込必要

開催日：2021年3月11日（木）19:30~21:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 申込：メールにてお申し込みください。（3/8締切）
 問合せ：大正製薬㈱（担当：前）TEL：090-5997-7130
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

参加費
無料

オン
ライン

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第68回例会

申込必要

テーマ：『ウィズコロナにおける糖尿病患者のメンタルケア～新たな時代の医のアートを考えよう～』
 開催日：2021年3月15日（月）19:20~21:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（3/10締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会 申請中

参加費
無料

オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



震災10年の今年、世界に目を向ければマンマードクーデターが勃発し市民の抗議デモ活動が活発化、中国では武漢の李医師を追悼する声が再燃。100歳の英男性が庭を100往復し募金を医療従事者へ寄付、しかしその後コロナに感染して亡くなるという悲しいニュースもあった。そんな中、森発言には正直呆れた。事なかれ主義と言われる日本人だが、黙ってはいけな

い時は声に出そうと強く思った。
 （広報委員 馬場 美佳子）



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network